



第34号 (年4回発行) 編集発行 弘前学院大学 学員会 前報委員 印刷所 (有)小野印刷所

卒業生への祝辞「沈思黙考」

学長 吉岡 利忠



2009(平成21)年3月19日(木曜日)に本学体育館で学位記授与式が開催されました。その一部を弘学時報34号に掲載し卒業生・修了生への祝辞とします。

した。大学院社会福祉学研究所修士課程では第5回生、文学部修士課程では第3回生の学位記授与でありました。 本年は、社会情勢、経済情勢は昨年

なるものと期待しております。特に、看護学部卒業生はほぼ全員の就職が決まっております。 皆さんはキリスト教主義教育を貫く弘前学院大学および大学院研究科を卒業、修了しました。



を体験しました。歴史と伝統のある大学に在学したことに、堂々たるプライドを持って欲しいと思います。弘前学院創設以来の歴史や

あつては誇れるものであり、在校生、卒業生、同窓会の強い絆が形成され、地方の教育機関として輝いております。

ランニングマシンの動くベルトの上を走させると、最初はそんなに走らなくてもその内自ら走るようになり、それに効果的なトレーニングをプラスすることによってな

以上、皆さんの前途を祝し、私の式辞といたします。

本多庸一とキリスト教(1)

学校法人弘前学院

弘前学院理事長・学院長

阿保 邦弘



七郷土での活躍

1 東奥義塾と本多塾長

藩校稽古館は明治四年廃藩置県とともに新設の青森県庁に経営管理が移管され、明治五年「弘前漢英学校」となった。

本多の盟友菊池九郎は、明治二年から慶応義塾に学び、三年には鹿兒島に遊学し、四年九月以後帰郷して弘前にあつたが、母校の廃

明治七年十一月満二十六歳の時であつた。本多の弘前時代は明治十九年に至る十二年間である。

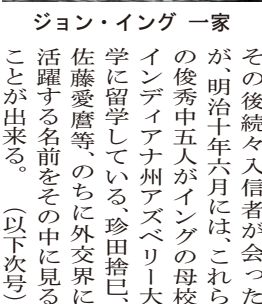
を開設し、これを一般公開した。また同じ年に、東京の明六雑誌にならつた「開文雑誌」を発行したが、これは十一年に内容の一層充実した「学友通信」に発展した。

えられたという。さらに明治十一年には学則を改正して組織を拡大し、公立中学設置に先立って中等科をおいた。

監督教会の宣教師となつて中国に伝道し、明治七年帰米の途中横浜に立ち寄つたところを、バラに説かれて弘前に来ることになつた

その後続々入信者があつたが、明治十年六月には、これらの俊秀中五人がイングの母校インディアナ州アズベリー大

2008年度 理事長賞 文学部 英語 英米文学科 高橋 絢佳 (盛岡白百合学園高校卒)





# 弘前ライオンズクラブより 二五〇万円の寄付

結成50周年を迎える弘前ライオンズクラブ(白石一雄会長から記念事業の一環で、県内の病院、保健施設等の現役看護師を対象としたリカレント教育(再教育)に先進的に取り組んでいる本学に対し、生涯教育の一環

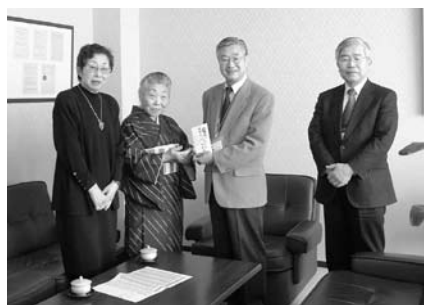


である「リカレント教育支援基金」として250万円が贈呈された。  
贈呈式は、弘前学院法人本部理事長広接室で行われ、白石会長から吉岡利忠学長に目録が手渡された。

## 弘前学院校友会より

### 母校援助金30万円の寄贈

本学院卒業生が入会する弘前学院校友会(工藤幸会長から、2月27日(金)に母校援助金30万円が吉岡学長へ贈呈された。校友会母校援助金は毎年度寄贈され、昨年度は校旗掲揚台の費用の一部に、今年度は体育館ステージ引き幕を購入する。学位記授与式(卒業式)には新しい引き幕で卒業生を送り出すことになりました。



### 吉岡学長、河村建夫内閣官房長官に 宇宙開発に関する要請書を提出

2009(平成21)年2月10日(火)、吉岡利忠学長は東京千代田区の首相官邸で河村官房長官に宇宙に関する要請書を手渡した。学長は、日本宇宙航空環境医学会の理事を長く務めており、国が新しく宇宙開発戦略本部(麻生太郎本部長)を立ち上げたのを期に、宇宙開発新体制に対して要望をしたものである。その骨子は、宇宙開発新体制における宇宙

医学研究の重要性の確認、宇宙医学研究を推進する環境整備、宇宙医学研究を推進する人材の育成である。日本は、米国、欧州、カナダ、ロシアなどと国際宇宙ステーションの建設に参画しており、日本実験棟「きぼう」が取り付けられたことは記憶に新しい。ステーションでは長期宇宙滞在にむけて各国の宇宙飛行士が訓練に励んでおり、特に、宇宙環境における生体機能の影響に

### 吉岡学長が財団法人 日本高等教育機構から「評価員」に再委嘱

評価員は、評価対象大学の書面調査、実地調査、調査報告書の作成等の職務を行います。  
(任期は、平成23年3月31日までの2年6ヶ月)

については解決しなければならぬ多くの課題が存在し、これらの問題を解決することは日本宇宙航空環境医学会の大きな使命でもある。この要請書は吉岡学長によって作成され、栗原敏理事長(東京慈恵会医科大学学長)とともに河村建夫副本部長に手渡しされた。この機会は、青森県選出の木村太

### 「青森県看護教員再教育講習会」 看護学部で開催

看護学部では青森県の委託を受けて二月十六、十七、十八、二十七、二十八の五日間、標記の講習会を開催した。  
この講習のねらいは、平成二十一年度から看護教育のカリキュラムが改正され、新しく「フィジカルアセスメント」「医療安全」「災害看護」などの教育内容が組み入れられたことに伴い、先ず実際に教育に携わっている教員の資質向上を図ることに置かれていた。  
医師不足など、最近では医師の過重労働が問題になって、その緩和策として、医療行為の一部を看護師などに委ねる方法が考えられている。  
フィジカルアセスメントは、従来医師が行なってきた目、鼻、咽喉などの状態を調べる診断技法を看護師が行なえるようにす

看護学部では、医師の負担をうけて二月十六、十七、十八、二十七、二十八の五日間、標記の講習会を開催した。  
この講習のねらいは、平成二十一年度から看護教育のカリキュラムが改正され、新しく「フィジカルアセスメント」「医療安全」「災害看護」などの教育内容が組み入れられたことに伴い、先ず実際に教育に携わっている教員の資質向上を図ることに置かれていた。  
医師不足など、最近では医師の過重労働が問題になって、その緩和策として、医療行為の一部を看護師などに委ねる方法が考えられている。  
フィジカルアセスメントは、従来医師が行なってきた目、鼻、咽喉などの状態を調べる診断技法を看護師が行なえるようにす

氏との協力を得て実りある講習を行なうことが出来た。  
整えられた教育環境の中で、「フィジカルアセスメント」「医療安全」「災害看護」など実際に活躍されている講師の方々から、具体的な方法やポイントを学ぶことが出来大変満足している。今後も継続して欲しいなど受講者の皆さんから好意的な意見が沢山寄せられたこともその証左といえよう。

地域総合文化研究所関係  
二〇〇九年度  
助成金の獲得  
●地域総合文化研究所の客員教授鈴木克彦(考古学)氏と共同研究者の笹森研究所長が、(財)青森県学術文化振興財団の助成金を獲得した。  
助成金額：965,000円

研究内容：「青森縄文時代の木製楽器(縄文琴)について」  
●研究所所長である笹森氏が代表である団体も、(財)むつ小川原地区・産業振興財団の助成金を獲得した。  
助成金額：1,800,000円  
研究内容：「津軽地方の中世の宗教活動・地方文化振興について」

### 社会福祉士・精神保健福祉士養成校 成績優秀者表彰

この度、2008(平成二十)年度の成績優秀者が決まり、三月十九日の学位記授与式後に表彰の授与が行われた。  
この賞は、学業成績・人物ともに優秀で、社会福祉士・精神保健福祉士養成校の養成課程修了者に対し贈られるものです。  
受賞者は次の方々です。



表彰者 渡辺あずさ  
表彰者 渡辺あずさ  
表彰者 乗田麻衣子  
表彰者 乗田麻衣子

### 「独立型社会福祉士」の (不)可能性に関する研究



みなさん「独立型社会福祉士」という名称を耳にされたことはありますか。  
弘前学院大学社会福祉学部では、社会福祉士の受験資格を取れることはご存知のことかと思えます。社会福祉士は、生活に困りごとを抱えていらっしゃる方の「相談」に乗り、そ

をしている社会福祉士のことを指します。現在は、「独立型社会福祉士」が実践されている地域に足を運び地域性を調べる「フィールドワーク」と、直接利用者と向き合って活動している社会福祉士への「インタビュー調査」を行っています。調査を通して、各地域の実践の違いや、社会福祉士という専門職の可能性と限界を明らかにできればと思っています。  
この研究の醍醐味はなんと、私にとってこれらの研究は、人の幸せを支える社会福祉士の可能性を社会に発信する機会であると同時に、大学における講義に向かう際のエネルギーになっていると確信しています。



談話室

大江健三郎と蕭乾の文学

顧 偉良



二〇〇九年一月に、大江健三郎の作品『鷹(たか)たしアナベル...』

海外研修に参加して

英語・英米文学科2年 福 士 茜

昨年の8月、私は海外研修というプログラムに参加し、アメリカのIllinoisに行ってきた。

選択クラスの仲間(後左側から四人日本人)

内モンゴルを訪れる予定だったが、先日、蕭乾ご夫人文潔若氏との電話で、北京の中国現代文学館と内モンゴル大学で大江健三郎について講演を行うようにとの依頼を受けた。

図を持たない旅人。私としては、どうしてもこの二つの作品について言及したかったのである。

さながら、波瀾万丈の人生を経めぐる喜劇の物語であった。いわば現代中国版の『ユリシイズ』

文学散歩に参加して

日本語・日本文学科2年 下山 静香



2008.10.26 寺山修二記念碑の前で

十月二十六日、文学散歩に行ってきました。今回行って来た場所は、寺山修二記念館と三沢航空科学館です。

クラブ紹介

華の道

日本語・日本文学科2年 下山佳代子

皆さんは「華道」と聞くと、どんなイメージを持ちますか？

軟式野球部

社会福祉学科3年 成田 聖司

私たち野球部は、部員九人にマネージャー二人の十一人で活動しています。

三沢市に着いて最初に訪れたのは、寺山修二記念館でした。寺山修二は、青森県出身の劇作家で、館内には彼が脚本を書いた映画のポスターや彼に関する年表、実際に使われた机や椅子などを再現した展示物がありました。

本は、「花を愛する心」です。そんな華道部の魅力は、生けた花に人となりが見られるところだと思えます。

指導してください。最大の行事は、学祭での花展です。花展では、普段のお稽古の時とは違い、多くの人に見てもらおうと、花器も花材も華やかにして生けます。

いとも助かっています。今年の目標は、本戦に出場することです。これからも、部員皆で力を合わせ、弘前学院大学らしい野球をしていきたいと思っています。

私の卒業後

英語・英米文学科 2006年3月卒 堤 一憲



まず、卒業後、すぐに入社した会社は、全国規模の靴屋です。ここでは、一年半在籍していました。

色々な事をしました。職業訓練校に通ったり、入社が決まったものの本採用にならなかったり。最近、話題になっっている派遣社員として、運送業で働いていたりもしました。

を出してみたい、社会人向けのセミナーに参加してみたりもしました。おそらくこれは、大半の人が持ちえる悩みなのでしょう。実際、私が卒業後に会った様々な人々も、みんな同じ悩みを持っていました。





# 卒業にあたり

英語・英米文学科卒 高橋 絢佳



「光陰矢のごとし」とはよく言ったもので、もう4年も過ぎてしまったものか...と正直驚いています。

ここ、弘前学院大学では、たくさんの素敵な仲間や教授との出会いがありました。また、さまざまな機会を与えていただき、新しいことに挑戦するきっかけをいただきました。そこか

# 四年間の思い出

日本語・日本文学科卒 佐藤 香織



四年間の思い出をと言われ、咄嗟に思いつくことが講義等に関するものでないというのは不謹慎かも知れませんが、私の思い出と言ったら、講義よりも何よりもこれしかないと思います。

「毎日が放課後のようだった」これだけです。確かに、講義はとても楽しい内容のものもあれば、少し難しいようなものもあり、とても充実していました。教育実習に行き、教育の現場をほんの少しだけでも経験したこともとても印象深いです。けれども、どんなことをしようとも、結局行

くれ、そして時には背中を押して、一歩前へ踏み出す勇気をくれた教授の方々、さまざまな面でサポートしてくださった関係者の皆様、そして、4年間見守り続けてくれた家族、そんなたくさんの人たちに支えられ、最高の大学生活を送ることができました。きっと弘前学院大学でなければ、こんなに有意義な大学生活を送ることはできなかったと思います。ここで過ごした4年間は、私の貴重な宝物です。ありがとうございました。これから弘前学院大学で学んだことを胸に、社会人として精一杯努力してまいります。今までも本当にありがとうございました。

四年間を通して、学校で笑わない日はきつとなかった。そう言える程、毎日が笑いで溢れていました。嫌だと思ってしまう講義があつたとしても、友人達に会えると思うと自然と足が学校へと向かうし、講義が楽しくなる気がする。「飽きる」と言う言葉を忘れるような日々でした。今、卒業という日を迎え、放課後ばかりの毎日は、終わりというチャイムと共に完全に思い出と化そうとしています。それにこんな気がしないのはきつくと、今でも日々の笑い声が頭から離れない所為だと思えます。様々な知識を得られた講義に感謝を。お世話になった沢山の方々には感謝を。最高の友人達に出会わせてくれた大学に感謝を。何より、笑い合えた日々と友人達に心からの感謝を。四年間、楽しかったです。

# 大学生生活を振り返って

社会福祉学部社会福祉学科卒 安田 理央



私が大学生生活を振り返るにあたり、欠かせない出来事は、多くの友人との出会いです。当初、私は、「大学とは、勉強はもちろん、その他何に關しても、他の人に頼らず、一人でやらなければならぬ」と思っていました。同時に、大学生活に馴染むことができないだろうかという不安も抱いていました。自ら話し掛けるのが苦手であり、

また、「一人でやらなければ」と気負っていたため、友人ができたのは想像もしていませんでした。そんな私に、笑顔で話し掛け、優しく接してくれる友人が、本当に嬉しかったです。勉強においても、友人が助け、支えとなりました。その一つに、国家試験に向けて友人と勉強することが挙げられます。模擬試験で良い結果が出ず、勉強にも身が入らなくなり、受験することを諦めたこともありました。友人と勉強することで、励まされ、頑張ろうという気持ちになりました。国家試験を受け

# 祝卒業

# 弘前学院大学で過ごした四年間

看護学部看護学科卒 石川 祥子



私たちが弘前学院大学に入学してから、早いもので四年の月日が経とうとしています。

私がこの四年間で最も印象に残っているのは、看護臨床実習です。それまでは主に授業でしか学んでいなかった疾病の特徴や治療法などについて、実際に患者さんを通して学ぶものになりました。実習を行ってみると、「同じ病気でも、患者さんによって病状も治療の仕方も違う」という大切なことに気づかされました。患者さんの性格や特徴を踏まえ、一人ひとりに合わせたケア

アプランを立て、関わっていくことがいかに重要であるかを学びました。患者さんの生と死に立ち合うこともあり、辛さを感じることもありました。この実習を通して、看護に携わっていく者として一回り成長できたのではないかと思っています。また、看護学部の仲間の存在も私にとって大きな支えとなりました。お互いに苦楽を共にし、励まし合ったからこそ実習や試験勉強を乗り越えられたのだと思います。特に、国家試験の勉強は、不安やプレッシャーの連続でしたが、分らない箇所を教え合ったり、他愛もない話をしながら、目標に向かって進んできました。看護学部の仲間には、本当に感謝しています。そして、いつでも私たちが温かく見守り、優しく時に厳しくご指導して下さいました先生方に、心から感謝を申し上げます。

# 弘前学院の思い出

大学院社会福祉学研究所修了 杉本 一久



わたしは本業である保育園での現場経験を活かして社会人入試を受験、大学院社会福祉学研究所の門をくぐりました。47歳の春のことでした。かつて、人生50年といわれていたことを思えばなんと驚異的な人生を歩ませていただいたことか。社会人に対し、広く門戸を開かれている学院の理念あるれる運営姿勢とそれを培い、支えてこられた関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。

ところで、わたしの志望動機はライフ・ワークである保育という営みを通じて平和な社会の実現に多少なりとも貢献しうるスキルと人間性を身につけることにある。わたしが保育園を運営する町は最近マスコミ報道でもよく取り上げられる、いわゆる「保育所持児童」が多い地域である。利用者及び潜在希望者数が多いだけに入園の是非や子育て支援策の展開など、現場に実際携わる者の姿勢が大きく

問われるところである。また、経営には金が必要だからとさまざまな費用を思慮なく徴取すれば、この不景気である。たちまちサービスを受けられる子どもの中で格差が生じるに違いない。このように保育実践者の人間性は町の子育て環境のグラウンドデザインと大きく関わるほどに影響が大きいことが分かる。福祉産業の民間委託・依存がますます拡大する現代においては、高齢者・障害などの他の福祉分野においても同じことが言えるであろう。福祉実践者が真の福祉社会のあり方について探求し続けなければならない理由はここにある。

本学院ではそれらについて学び、研究するための素晴らしい環境が用意されている。そのお陰でわたしも多くを学び、研究に没頭することができた。その中身についてはすべてを披露することは適わないが、あえて一言で申し上げると、「福祉のこころとその精神性に裏付けられた福祉現場の日常を創造する人間の具体的なあり方」についての学びの日々であった。

福祉の理想は気高い。その気高さゆえに悲しい出来事のあるまじりにも多い現代社会において究め行く道程は遙かに遠いことかも知れない。しかし、その道の途中で見る景色は美しく詩情に満ちているのではあるまいか。創造力を発揮しつづける子どもたちのように新たな自己との出会いを喜び、社会の母性として福祉のこころが社会に広がりゆくことを夢見る49歳の春です。



卒業記念パーティー 2009. 3. 19